

製造過程で発生するおがくずを酪農牧場で再利用 吸水・吸湿に優れ、牛舎の衛生環境を保つ ～酪農牧場との協業で循環型社会に貢献～

防熱扉の設計・製造・施工を手がける岸産業株式会社（本社：大阪府堺市、代表取締役社長：岸 晃広、以下「当社」）は、防熱扉製造過程で発生するおがくずを「牛の寝床」として再利用する取り組みを、奈良県奈良市の植村牧場株式会社（所在地：奈良県奈良市、専務取締役：植村 俊輔様、以下「植村牧場」）と連携し、2025 年 8 月より本格的に開始いたしました。当社で発生する廃棄物を一次産業で利活用可能な“資源”として活かし、酪農牧場との協業を通じて循環型社会の形成に貢献してまいります。



植村牧場牛舎(導入先)



工場内で発生したおがくず

■ 取り組みの背景と内容

当社では、防熱扉の製造工程で月に数トン、年間では数十トン（推定）にのぼる木材廃棄物（おがくず）が発生しており、これまでは産業廃棄物処理業者に有償で回収を依頼していました。

しかし、回収にかかる労力や環境負荷が課題となっていたことから、社長の知り合いである奈良県奈良市の植村牧場におがくずを提供し、牛の寝床として活用いただく取り組みを 8 月より開始しました。

植村牧場に届けられたおがくずは、牛舎で牛の寝床に使われます。おがくずは、米の脱穀で出る「もみ殻」と比べて吸水性・吸湿性に優れており、牛の発汗や糞尿による水分を吸収して、牛舎の衛生環境を保ちます。その後、糞尿と混ざったおがくずは堆肥舎で自然発酵し、有機肥料に生まれ変わります。農地に活用されることで、農作物の栄養源としても役立っています。

※おがくずの発生量は、当社防熱扉の受注・製造量により変動いたします。

■ 植村牧場からの声

これまでは、主に林業を営む複数の製材所からおがくずを購入してきました。しかし近年、製材所の閉業やおがくずの価格高騰が相次ぎ、調達に大きな課題を抱えておりました。牧場では、堆肥出し（牛の寝床交換）の際に大量のおがくずを使用します。そのため牧場内で必要なおがくずをすべて賄うことは難しい状況ですが、廃棄されていたおがくずを導入できることは、経費面を含め大変助かっております。これまで何度か導入させていただきましたが、牛の体調に悪影響が出ることもなく問題なく活用できております。今後も継続的に購入していきたいと考えております。

■今後の展望

当社は今後、酪農牧場・畜産農家など一次産業に関わる生産者様との連携をさらに深化し、資源循環の輪を広げていく所存です。“町工場が生み出すゴミをゼロに近づける”を合言葉に、ものづくり企業として新たな社会貢献のカタチを追求してまいります。

■会社概要

本社 : 大阪府堺市堺区北波止町 42-22
代表者 : 代表取締役 岸 晃広
設立 : 昭和 33 年 10 月
従業員数 : 40 名
URL : <https://kishisangyo.com/>

<報道関係者 お問い合わせ先>
岸産業株式会社 担当：井上 航 TEL：072-233-0102 メールアドレス：info@kishisangyo.com